毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵税共五十錢）

編輯兼發行人　森山二郎
發行所　長野縣上田市　上田蠶絲專門學校
發行所　長野縣南佐久郡　同窓會
印刷所　信濃毎日新聞印刷部

生糸輸出から絹織物輸出へ

N生

昭和五年は我國の經濟界には實に多難な厄年で何れの産業にせよ一として痛手を受けないものは無かつたが就中産糸業の受難は最も甚しきもので種々の應急救濟策も殆んど効果なく關係者は何れも七轉八倒全く生色なき慘狀であつた、

蠶糸業は我國輸出の大宗にして我國際貿易は之ありて均衡が保たれ國際支拂は保證されるのであつて頗る豪勢な歡あるが一度立入つて其内容を觀察すれば其企業形態は頗る空薄にして其基礎は甚だ不定である。從つて一度不況に遭遇すれば忽ち今度の如き悲況に陷つてしまふのである

此事は今日ばかりでなく蠶糸業が其不合理な組織を改善しない限り將來何時まで經つても除かれるものでない。

蠶糸業の合理化と改善は既に久しきの懸案であるが未だ更に實現されない。其組織、統制に就いては當局も相當に盡力してゐるが當業者相互の無自覺に因つて少しも改善の跡がない。養蠶製糸販賣の三者は互に自己本位に走り利害相反目するの形狀を作り斯業本來の經濟的活動は到底期待すべくもない。斯くては蠶糸業界は依然として無統制と無秩序を繰返し漸次衰退して行くばかりである

我蠶糸業界が所謂百年の大計を樹てるためには先づ生糸輸出を改めて之を内地に於て製織加工し絹製品として輸出する事が最良の方法である之は我蠶糸業組織の根本的改革であつて到底一朝一夕に出來る事ではないであらうが併し斯業將來の安泰を希ふには是非此實現に向ふて進んで行かねばならぬ。

從來我生糸は其總産額の殆んど大部は輸出され國内需要は極めて僅少に過ぎず而も此の輸出生糸殆ど大部は米國への輸出である。從つて斯業の浮沈は一に米國財界の好否に因り一朝米國財界不況のときは直ちに輸出減退を來し其調節の方策がない。其以つて不安な次第である。もし之が内地で加工されて絹製品として輸出されるのであつたらそれは唯に米國ばかりでなく其他何處の國へでも向くのである。從つて他の輸出品の如く或一方の賣行が不振でも他の方で之を埋合せる事が出來る。斯くなれば蠶糸業の基礎も次第に強固になつて行くであらう。故に斯業當事者は此機會より假令徐々であらうとも着々此に向ふて進まれん事を希望して止まぬ。（五、一二、一五）

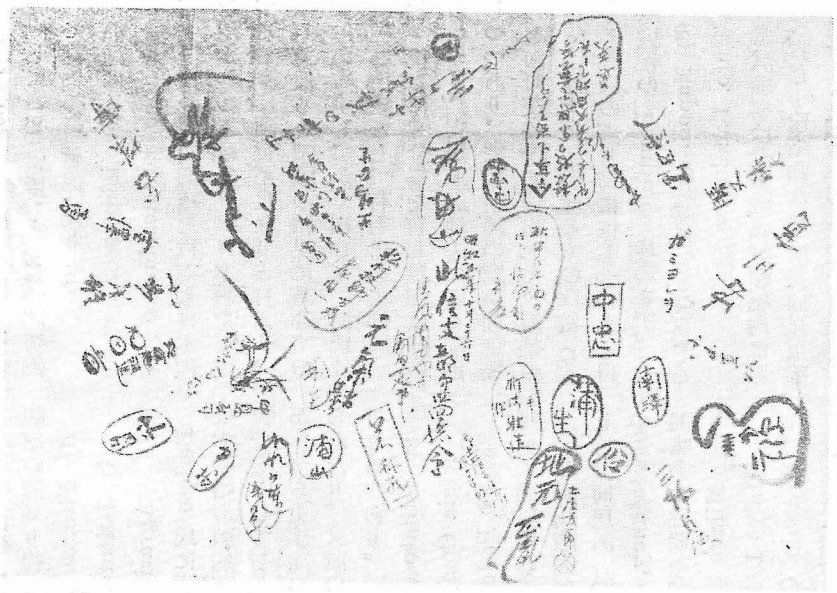
松村季美氏よりの通信

晩秋の砌各位益々御健勝の御事と大賀奉り候扨に Padova より萬國動物學會の模樣概略御報申上候ひし細なる御報告致す可く候も只今は以上諸國旅行視察の概略取まとめ御報告申上ぐ可く候。統計其の他は尚辭書を參考して譯出すべき必要のものも多く、夫れには少しく時日を要すべく候まゝ右事項を省略致すべく候間御諒承願上候、是より旅裝を新たにして北歐丁抹地方の農業教育、農業經營狀態を少しく時日を費して視察致す準備中に候

十一月六日

松村季美

上田蠶絲專門學校同窓會御中



寫眞說明

この寫眞は松村季美氏送別の會合席上での寄せ書きです

伊佛蠶絲業視察概況

附自然科學研究所訪問記

1、視察旅行期間

14/9—2/11

2、視察地名

(a) 伊太利：—

Nattorio, Veneto.

Ascolipiceno. Napoli, Portici.

Firenze. Milano. Como.

(b) 佛蘭西：—

Vidauban. Montpellier. Ales.

Valence.

Lyon. St, Genis-Laval.

(c) 瑞西：—

Geneve. Bern. Zürich

(d) 獨逸：—

München

e) 墺太利

Wien.

(f) チェッコ、スロヴァキア

Brünn. Prague

視察個所及視察事項：—

(3)

(a) Vittario. Veneto

(Italia) 16/9

蠶種製造家 Pasqualis氏蠶種製造所。

技師長 Antonio Rossi 氏案内にて所内を見る只今蠶種檢査中にして何れも一峨袋に入れ保管しあるを見る規模壯大なること他に比を見ざる程度なり Follina, Abruzzo に尚分場を有す品種としてはChinese. oro. Abruzzo, Ascoli 等可なりと認む。赤熟世界一白龍等の品種も飼養す當地は宛も姥捨山の如き傾斜地を以つて圍まる飼育分場は斜地日光透射可良なる場所なるが故に桑樹發育良好にして桑葉の飼育價値從つて向上されるものと認めらる

當蠶種家の先代 Giuspe. Pasqualis 氏は學者にして養蠶業が科學的基礎に立脚せざる可らざるを先見し自ら研究的に蠶種の製造を開始した後、約五十日間を伊佛の蠶糸業及び獨・瑞・墺・チェッコ・諸國の學術研究機關の視察に費し十一月三日伯林に歸着仕候、旅中貴受け又は購入したる調査資料は全部持ち歸り、夫等の詳

る事は留意す可き事にして同家の今日あるは偶然に非るものなり。

(b) Ascoli-Piceno: —19/9—21/9, (Italy)

(1) Stazionedi. Gelsicoltura e Bachicoltura 訪問

本試驗場は蠶種並に栽培の二部に亘りて試驗研究を行ふ。所長は C. Acqua 氏にして其下に Dr. Lombardi（婦人）及 Dotto. M. Veneroso の三名なり、Acqua 氏は主として生理病理の試驗を行ひ Lombardi 氏は遺傳、品種改良等の試驗を行ひ Veneroso 氏は化學的の試驗を行ひつつあり、更に Carcino 試驗を新設し之が研究を行ひつつあり。桑園は高刈仕立を主とし之に根刈、中刈、を加へ耕耘管理等規則正しく行はれつつ有るを見る、講習部ありて春期三ケ月講習生を養成す。

蠶品種試驗として一×二化交雜の試驗（日二化性二歐一化性交雜）の品種を生産せるを見るも其の產繭貧弱にして見るべきものなし、何が故に然りやは研究事項に屬す可し。當場にて選出せる新品種と稱しつゝあるもの次の如し：—

Bivoltine Chinese × Oro annuale, Vivo Aojiku × S. A. n1. Brianza annuale × S. A. n1. にして S. A. n1. S. A. n2. S. A. n18. が當場自慢の品種なり。

(2) 蠶種家 Gallo Tarlazzi 氏蠶種製造所、

同氏は一代に堅固なる基礎を築上げし奮闘的立志傳中の人物にして支配人 Vecchiotti Giuspe 氏が頗る敏腕にして商才に長けたるを知るを得べし。Ascoli, chinese oro に良品種を有す日本にも蠶種を輸出す。分場は當市附近の傾斜地にして日光の透射可良なる場所を選出し稚蠶中を低地にて飼育し壯蠶に及ぶに從い丘上の冷涼地に飼育分場を移す方法を採用せるは注意深き事にして同氏の飼育法は生理的飼育法に合致するものとも言ふべし。

同氏につき飼育法の大様を質問したるも飼育方法としては格別珍らしきことあるを認めず

(3) Sacconi. Natali 氏蠶種製造所

古き手堅き蠶種製造家なり家系舊家にして相當有位置の人なるも本年二月他界して今は支配人が主として經營しつゝあり、Ascoli に良種を有す、規模は Tarlazzi 氏に比すべくも非ざるも堅實なる經營を認む、chinese oro, chinese bianco, Giallo Maiella（繭形短楕圓）Ascoli を有す Giallo. Ascoli × orochinese（反交）Giallo. Ascoli × maiella 等の交雜種を製造す

(4) Mari. Erasmo 氏蠶種製造所

氏は戰爭前支那及日本の蠶絲業を視察せりと語れり。製造場は廣大なるも蠶繭價格低下の爲蠶種製造を減少せりと言へり同氏は Maiella を交雜するときは繭重輕く收繭量少きが故に養蠶家喜ばずと語れり、業者の心情東西之を等しくするを知るべし、

(5) Antonio. Catenacci 氏蠶種製造所、

同氏の事務所は Milano, Via. Meravigli 12 なり。伊國蠶種同業組合長にして頭腦明晰、意見多き人なる由なるも同氏に面會せず支配人（技師長）Angelo. Mortini 氏に會し高莊にして雄大なる製造所を視察す。時、宛も蠶種の檢査中なりき。女子一日勞働八時間にして am 8時—12時 pm 2時—6時にして其の間に休息す一日給料 8 Lire（約90錢）なり。蠶種製造時期は勞働時間12時間にして 12 Lire（1圓30錢）なり、男子は8時間勞働して 15L（1圓70錢）12時間勞働して 22L（2圓30錢）なりと、

品種は Ascolichinesecoro. 及 chinesebianco. japonesebianco 等を有す、其の間の交雜を行ふも日本種を用ふること稀なり、日本種を交雜するときは繭質不良なりと言ふも、果して然るか試驗の結果に基きての事にあらずしてかく稱せり。同氏は蠶種製造家として有名にして佛國、Alp 地方にも分場を有し蠶種は印度ボンベイ、支那上海地方に廣く輸出しつつあり、嘗て伊國の蠶種製造模様を河野茂盛氏が釋出して、蠶業新報(9)誌上に掲載せるものは當 Catenacci 氏の廣告用に供しつつある自家宣傳の Pamphlet に過ぎず。

(c) Napoli. Portici (Italy) 24/9 Istituto. Bacologico 訪問、

當試驗場は農業動物試驗場內にあり、古き小建築物なり、所長は昆虫學者 Anna. Toa（婦人）氏なり設備等貧弱にして見るべきもの無きも一×二化交雜分離品種（日本二化性品種を交雜して）强健なりとて夏秋蠶用に供用しつつあるも繭質不良にして問題にするに足らず（Ascoli × Awojiku）より分離したる品種が强健なりと言へり。10.11.12の三ケ月30人の生徒を教育す。

當地方は Tlachnie 多く時に Grasserie あるも Carcino は殆どなしと。蓋し當地方は濕度低く50—60%の間を往復しつつあるが故に Carcino 出でざるも道理也、之に反して Ascoli 地方は谷深き邊は濕氣多く Carcino 出すと

Carcino 出するは飼育法の欠陷も有するを後に及んで Milano 地方視察の際知り得たり。

(d) Firenze. (Italy) 29/9

(1) Istituto. Entomologia. Agraria

Berlese 氏に面會を求めしに同氏は本年始め頃病死せりとて他の代理教授案內して Berlese 氏の有名なる、かひがら虫驅除の研究成績を說明せられたり。文獻の集ありたるは驚く可きものあり。

(2) Istitato di Anatomiac Tigiolgia Comparate

Satto E Padova 氏は Padova 會議にて遇いたる人なれば丁重に案內說明し動物陳列所（博物館）等案內し且つ同氏の試驗しつゝある雞の Gonadectomy, influence に就きて興味ある說明を試みたり。

(e) Milano (Italy) 及 Como (Italy) 1/10——6/10

1. Antonio. Catenacci 氏事務所

支配人に面會し蠶種の交換を約す

1貫目4圓にて日本の養蠶家は引合ふや、伊太利ではかく繭が安價にては他の農產物に主力を注ぐべし。一体日本の政策は如何等、仲々急所を衝く質問を先方より發したり、之に對し濱口內閣が鋭意、不景氣挽回策を講じつゝあること及蠶業の位置及農業組織の伊佛と日本と大いに異ること、日本の養蠶業の規模大にして他の農產業の規模小なることを語りたるに、先方も漸く得心せり、當地方農家は Olive 小麥、モロコシ、とまと、菜等を廣々したる畑に植え、其の間に桑樹を、植るものにして恰も桑が間作植物なる狀態なり而して株間三間、畦幅五間內外に高刈の桑を植ふるが故に農作物に日蔭を作る事少くよく成熟せり。

(2) Societe Italiano. Produttori. Semo Bachi 訪問、當事務所は伊太利の養蠶家が出穀繭の共同販賣、蠶種外國販賣の斡旋を爲し併せて蠶種製造業向上發展を目的として生れ出たる團体にして Bollettinodi Sericolture を出し居れり、各國の蠶絲業狀態を調査し該雜誌に掲載する事に努力しつゝ有りて活動狀態敏速なり事務員三名にて會務を處理しつゝ有り Dotto. Camillo Belli 氏は甚我國の蠶絲業狀態に就き興味を有し却て逆に日本の蠶業につき詳細なる質問を受く、當方も之に答ふると共に伊國の蠶絲業につき種々質問せり今質問の內答を得たる事項を略記せば次の如し（順序不同）

1、桑樹は三十年近くも經たるもの多く毎年伐採せず休養ぜしむるを可とす（伊太利なればこそかゝることをなし得）肥料は主として堆肥なり間作は麥、小麥 grape olive Tomato 菜其の他數多し、土地肥沃にして耕土深し、

2、Milano.

Milano 地方は冷溫なれば Carcino. Grasserie Tlacherie 等多し、養蠶家は除沙すること殆んどなく且火氣を夜分使用せず爲に發病多きなるべし、飼育法は幼稚なり、

以下次號に續く

昭和四年度上田蠶絲專門學校同窓會通常會計收支決算書廣告

歳入

一、金參千五百五拾參圓參拾九錢也　歳入決算高
一、金參千八百貳拾圓也　歳入豫算高

歳出

一、金貳千七百五拾六圓六拾七錢也　歳出決算高
一、金參千八百貳拾圓也　歳出豫算高
差引殘高金七百九拾六圓七拾貳錢也　昭和五年度ヘ繰越

歳入

決算

決算說明（△ハ增ヲ示ス）

款	項	決算額	種目	本年度決算額	本年度豫算額	比較增減	備考
一、會費		二、八一四、〇〇〇		二、八一四、〇〇〇	二、六三五、〇〇〇	△一七九、〇〇〇	
	通常會費	二、七二九、〇〇〇	通常會費	二、七二九、〇〇〇	二、五六〇、〇〇〇	△一六九、〇〇〇	
	終身會費	七五、〇〇〇	終身會費利子	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇		
二、基本金		三〇〇、〇〇〇	終身會費成崩高	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇		
	積立金利子	三〇〇、〇〇〇		三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇		
三、雜收入		一三七、〇二〇	利子	一三七、〇二〇	三一〇、〇〇〇	一九二、九八〇	
	印稅	—	印稅	—	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
	廣告料	四五、〇〇〇	廣告料	四五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五五、〇〇〇	
	雜收入	九二、〇二〇	預金利子	九二、〇二〇	三〇、〇〇〇	△六二、〇二〇	
四、寄附金		二七、〇〇〇	雜收	四二、九〇〇	三〇、〇〇〇	△一三、九〇〇	
		二七、〇〇〇		四九、二二〇	一〇、〇〇〇	△三九、二二〇	
	寄附金	二七、〇〇〇	特定寄附金	二七、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四七八、〇〇〇	
			一般寄附金	—	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
五、繰越金		二七五、三七〇		二七五、三七〇	五〇、〇〇〇	△二二五、三七〇	
	繰越金	二七五、三七〇		二七五、三七〇	五〇、〇〇〇	△二二五、三七〇	
合計		三、五五三、三九〇	前年度繰越高	二七五、三七〇	五〇、〇〇〇	△二二五、三七〇	
				三、五五三、三九〇	三、八一〇、〇〇〇	二六六、六一〇	

歳出

決算

決算說明（△ハ增ヲ示ス）

款	項	決算額	種目	本年度決算額	本年度豫算額	比較增減	備考
一、事務所費		五九二、〇〇〇		五九二、〇〇〇	一、四一五、〇〇〇	八二三、〇〇〇	
	俸給	一六六、〇〇〇	專任幹事給	一六六、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	
			書記給	—	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	
	雜給	一九、〇〇〇	傭人手當	一九、〇〇〇	三五、〇〇〇	八四、〇〇〇	
			賞與	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	
	旅費	一五、〇〇〇	旅費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	
				一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	
	需要費	一九六、四七〇	備品費	一九六、四七〇	一五〇、〇〇〇	△四六、四七〇	
			消耗費	三七、五三〇	四五、〇〇〇	八、〇〇〇	
			通信費	三二、六三〇	五五、〇〇〇	二二、三七〇	
			雜費	六〇、三二〇	二〇、〇〇〇	△四〇、三二〇	
	集金費	一九五、五三〇		一九五、五三〇	一七〇、〇〇〇	△二五、五三〇	
			會費集金手數料	一五、一六〇	二〇、〇〇〇	四八、八四〇	
二、會議費		一二四、〇六〇	代議員會費	一二四、〇六〇	一三〇、〇〇〇	五、九四〇	
			旅費補助	七六、一一〇	一〇〇、〇〇〇	二三、八九〇	
			雜費	三七、九五〇	三〇、〇〇〇	△七、九五〇	
	役員會費	三七、一〇〇	役員旅費	三七、一〇〇	四〇、〇〇〇	二、九〇〇	
			雜費	—	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
三、事業費		一、八六三、五一〇		一、八六三、五一〇	一、八五三、〇〇〇	△八、五一〇	
	雜誌費	一、一六八、四一〇	雜誌印刷代	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—	
			原稿料	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	—	
			編輯費	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	
			送料	八、四一〇	一〇〇、〇〇〇	二、五九〇	
			雜費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	
	會報費	六五四、九五〇	會報	五九四、四〇〇	五五〇、〇〇〇	△四四、九五〇	
			名簿	一五二、〇〇〇	一五五、〇〇〇	三、〇〇〇	
			送料	七四、五四〇	四〇、〇〇〇	△三四、五四〇	
			雜費	三四、二一〇	二〇、〇〇〇	△一四、二一〇	
	講演講習費	—	講師費	—	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	
			雜費	—	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	

四、補助費	補助費	一五〇、〇〇〇 一五〇、〇〇〇		
五、豫備費	豫備費	— —		
合計		三、七五六、六七〇		
研究費		— —	二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇
共濟費		二〇、一五〇 二〇、一五〇	二五、〇〇〇 二五、〇〇〇	四、八五〇 四、八五〇
調査費		二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇 五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇 三〇、〇〇〇
補助費		一五〇、〇〇〇 一五〇、〇〇〇 一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇 一五〇、〇〇〇 一五〇、〇〇〇	— — —
豫備費		— — —	一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇
合計		三、七五六、六七〇	三、八二〇、〇〇〇	一、〇六三、三三〇

基本金

項目	金額	摘要
前年度繰越高	六、四二一、三六〇	
本期間收入利子	三七〇、二二〇	
本年度積立金(入會金)	七八九、〇〇〇	
通常會計ヘ拂出高 利子	三〇〇、〇〇〇	
差引現在高	七、二八〇、五八〇	

別途積立金(終身會費)

項目	金額	摘要
前年度繰越高	一、〇五四、〇六〇	完納者二八名 未完納者一〇名
本期間收入利子	六七、三六〇	
本年度入金積立高	四〇〇、〇〇〇	
通常會計ヘ拂出高 成崩高	△ 一〇、〇〇〇	
利子	△ 六五、〇〇〇	
差引現在高	一、四四六、四二〇	

海外留學資金

項目	金額	摘要
前年度繰越高(加美氏寄附)	一、二二五、三六〇	
同上本期間收入利子	六七、八九〇	
本年度積立高(遠藤先生寄附)	五三五、五五〇	桑樹栽培論印稅
合計現在高	一、八二八、八〇〇	

貳拾周年記念事業資金

項目	金額	摘要
前年度繰越高	一四、七四五、〇九〇	
本期間收入利子	九三三、四六〇	
本年度入金積立金	三、四六八、〇〇〇	
合計現在高	一九、一四六、五五〇	

貸借對照表

負債之部	金額	資産之部	金額
基本金	七、二八〇、五八〇	國庫債券(額面八千三百圓)	七、六六〇、五二〇
海外留學資金	一、八二八、八〇〇	信濃銀行定期預金(四筆)	一三、一七八、七四〇
別途積立金(終身會費)	一、四四六、四二〇	第六拾參銀行定期預金(二筆)	四、二七三、九八〇
貳拾周年記念事業資金	一九、一四六、五五〇	第拾九銀行定期預金(一筆)	一、三〇三、三五〇
通常會計次年度繰越金	八一六、七二〇	上田信用組合定期預金(一筆)	一、〇〇〇、〇〇〇
		第拾九銀行當座預金	一、三六一、八九〇
		貯金局預金	一六九、五九〇

財産目録

項目	金額	摘要
國庫債券(額面八千三百圓)	七、六六〇、五二〇	内昭和七年償還五分利額面五千圓 第二種雜五分利額面三千三百圓 每年四月及十一月ヲ書換期トスル定期預金四筆 期限五年四月 期限五年四月 期限六年一月
信濃銀行定期預金	一三、一七八、七四〇	
第六拾參銀行定期預金	四、二七三、九八〇	
第拾九銀行定期預金	一、三〇三、三五〇	
上田信用組合定期預金	一、〇〇〇、〇〇〇	
第拾九銀行當座預金	一、三六一、八九〇	
貯金局預金	一六九、五九〇	
現金在高	一四六、一一〇	
協贊會ヘ假支出金	一、三〇〇、〇〇〇	
立替金	一二五、〇〇〇	
合計	三〇、五一九、〇七〇	

現金在高	一四六、一一〇
協贊會ヘ假支出金	一、三〇〇、〇〇〇
立替金	一二五、〇〇〇
合計	三〇、五一九、〇七〇

上田蠶絲專門學校創立二十周年記念事業協贊會々計報告書(昭和五年代議會)

收入之部

一同窓會特別積立金ヨリ入金	一、三〇〇、〇〇〇
一全國製絲紡績輸出業者寄附(十三筆)	三八五、〇〇〇
一同蠶種製造養蠶業各者寄附(二十筆)	二四一、〇〇〇
一上田市有志共他寄附(四筆)	二一〇、〇〇〇
一母校同窓生特別寄附(五十二筆)	四九五、〇〇〇
一十九銀行預金利息(自昭和四年五月至同五年八月)	二六、二一〇
一貯金局振替貯金利息(自昭和四年六月至同五年四月)	六、〇〇〇
合計	二、六六三、二一〇

支出之部

一協贊會創立費		一三九、六九〇
但シ發起人會並ニ役員會々費	(一三九、六九〇)	
一寄附金募集費		五八六、四一〇
內譯 寄附金募集費其他雜費	一四三、五九〇	
事務人件費	四二一、〇〇〇	
役員見舞及弔慰金	二一、八二〇	
一諸印刷費並ニ封皮代		二四一、二四〇
內譯 諸印刷費並ニ封皮代	一三一、九五〇	
通信、郵便、切手代	九八、六二〇	
寄附返濟所要通信費	四、七七〇	
集金郵便代	三、四〇〇	
諸帳簿用紙代	二、五〇〇	
一一般寄附返濟額總計		八三六、〇〇〇
內譯 全國製絲紡績輸出業者	三八五、〇〇〇	
同蠶種製造養蠶業者	二四一、〇〇〇	
上田市有志其他	二一〇、〇〇〇	
一同窓生特別寄附金返濟額		四九五、〇〇〇
一未拂金(殘務整理費)		二七四、八八〇
合計		二、六六三、二一〇

收支決算

收入金合計	二、六六三、二一〇
支出金合計	二、六六三、二一〇
差引	零

(以上)

十種あて物競技記錄

北信支部總會席上における餘興

昨年の總會には家庭用品値踏競技をやり皆樣の大喝采を博したのであります。處が此の成績を觀ますに相當良好な方もあつたやうですが大抵の方は成績不良だつたのであります殊に卒業後相當の年數を經て社會的に經驗深き筈の年齒多き方に於て殊に不良だつたのは實に嘆しい次第であります。然し更に三考する時斯く迄に俗事を離れ專門の仕事に熱中さるゝ事に思ひ至れば亦喜ばしい現象の樣にも思はれます。

今年も亦常識問題としての當て物競技を提出する事としました。平素御研究の仕事を離れ、常に眼に觸れ手にする物に就いての數理的常識の程度を御伺ひし亦御參考に供し度いに他ならないのであります。

問題は十種あります。御配布の紙片に御記入下さい。御名前を忘れない樣に。猶一言御斷りして置き度いのは正解者の多い場合には年齡順に入賞せしめたいのであります。之は昨年の競技に於て年少者に先取特權を與へたがとう〳〵毎年若い者に花を持たせてはと、老人の方から小言がありましたから今年は老い先短き老人に敬意の意味を以て花を持たせる事としました。說明は此位にして皆樣の御鑑定を願ひます。

當て物十種競技

一、(A)稻穗(見本通)闊取、愛國種二穗の粒數

實際數　闊取一二七、愛國一一

一、計二三八粒

(B)白米(見本通)一升の粒數

實際數　七四〜一六〇粒

二、菊花(見本通)大輪小輪二本の花辨數

實際數　大輪三七五小輪一八計三九三

三、蠶種一蛾(見本通)の卵數

實際數　五五九粒

四、德利一本(見本通)の容量は盃何杯なるか

實際數　八杯

五、大正橋手摺支柱(兩側)の本數

實際數　二五六本

六、湯(沸出口)の溫度と千曲川水溫との差(午後一時現在)

實際數　湯四五度水一九度差二六度(攝氏)

七、會員履物中の短靴數

實際數　二三足

八、會員中の金時計所持者數

實際數　一一名

九、會員金齒所持者數

實際數　二七名

一〇、會員現在の所持金高最高最低

總額實際最高三四、五〇〇　總額四七八、最低一、〇〇　六二圓

但七——一〇、迄は會員の各自已紹介の際正確に發表せしめ調査す成績及授賞者　數多き數字とて正解者が少かつたから近似數のものから入賞とした。中には隨分突飛な答も出て驚いた。賞品は夫々問題に因んだものを授與する事とした。

一、(A)稻穗二穗の合計二三五粒が最も近似數で一等小山哲君百姓仕事に關係ありとて上等の餅、二等窪田君頻被用の手拭、三等川船君田圃行草鞋各々を與へた。學校の化學部で毎日ミロン反應ばかり見て居るのか三輪君は三倍以上の七八六粒と答へてゐた。

(B)白米一升の粒數、生れて以來毎日三度三度之を食し少くも二十餘年多きは五十年近くも經て居るのだから少くも全會員近似數を答へる事と思ふてゐたら案外の不出來、殊に食事回數多き年寄連に桁違ひの數を示されたのには驚いた。前問題で味噌をつけた三輪君と年若い西澤君が共に七五、〇〇〇粒で最近似數、三輪君先輩の故を以て一等となり白米一升西澤君二等で五合、三等は中村君、中嶋、茂山君、同數の七七、七七七粒と解答、中村君年長のため入賞白米一合。平素蠶の生理學方面の研究者として、我等の敬服する學者蒲生氏は餘り俗事に關せられないためか白米一升の粒數實に二八、一三三、九五二粒と記入し凡人共を驚かされた。之だけあれば愚案だつて一升になつて仕舞ふ。

反之齋藤氏の三六〇〇粒も大豆か蠶豆の粒數しかないと可笑かつた。大方原蠶飼育に忙がしくて今迄考へた事がなかつたためだらう。

二、菊花二輪の花辨數、小輪の方は大抵當つたが大輪の方は六ケ敷かつたらしい。蒲生氏は前回の名譽を回復して一等となり菊花大綬章、濱井氏二等中綬章、土屋君三等小綬章、共に名譽を胸間に飾られた。本問題で又齋藤氏は二、五一六と記し突飛者のレコードホールダーとなられる餘程原蠶飼育に疲れてゐるらしい。川船君の五五は馬鹿に少いが此頃眼が悪いからと辨明してゐた。

三、蠶種の粒數だから養蠶出にハンデキャツプを附さなければと思ふてゐたら案外、製糸出の中澤忠氏一等となり、御得意の齋藤氏などギヤフン、二等金澤君、三等原茂君。

四、德利の酒量、トツクリ考へたのかた利きが多かつたのか馬鹿に成績が良い。年長順で齋藤、南澤、土屋君の順序に入賞。中に北條君の四〇杯とあるは右利きのためか仕事に熱心のためか。何時も突飛解答のレコードを作る齋藤氏名譽回復の心算か德利と盃を貫らつて右向き左向きニコ〳〵顏。

五、橋の手摺支柱數、最近似數二五三本で土屋孝君一等、橋に因み特上の箸一組、二三等同點、年長の中澤氏は上等箸一組、川船君は下等割箸一箱。宮澤君の一、一〇〇本は多過ぎたし田中亮君の二〇本は少な過ぎた。

六、溫泉の湯の溫度を六〇度なんて書いた人がある。之ぢや草津のお湯より熱く蛋白質が凝固しそうだ、一等土屋君で寒暖計。二等は竹內君、今少し感觸をよくして貰ふ意味で石鹼、三等北澤孝君、更に觸感をよくするためにと輕石、此の分ぢや當選圈外の諸君にはコンクリートかナイフでも與へなければと大笑ひ、北島君の溫差六〇度がレコード、之は近頃アタマスキの研究がスイたためか

七、短靴の數　宮澤君二二足で一等子供用の上等ゴム靴を貰ふ。未だ奥樣がないから二、三年仕舞つて置けと誰かゞ叫んだ。尤もだ。二、三等二一足で同點、年齡順で和田君二等上等草履、三輪君三等、下等草履。中に勝又君の五三足があつた。五四名中和服が五名もあり相當深ゴムや編上げのあつたのに、同氏もコウカ病の研究に沒頭してゐるからドウカコウカしたのだらう。

八、金時計所持者數　案外少なく五分の一しかなかつたのは世相の反映か。一等加美氏上等金時計二等土屋茂君銀時計、三等は同點者多かりしも頭の光に於て斷然他を壓する飯島氏と決定、婦人用腕卷時計授與。但し以上の時計の價格の點は保證の限りでない。

九、金齒所持者數　相當齲齒に惱まされて居るので一等の中嶋茂君には上等齒ブラシ、二等の南澤君には齒磨粉の大袋、三等の竹內君には小袋を呈した。獅子舞の如く金齒を入れてゐる中曾根君は同病者多しと見てか四八名と書いた。

一〇、所持金額は虛なしと見て會員の紹介そのまゝを計算した。齋藤氏が一圓間違つたが安川君の注意で再調した處引算の誤と判明直ちに訂正した。個人の最高金持ちは不景氣でも製糸家だ高木氏の　三四、五〇圓で最低は垣內君の一圓であつた。會員總額は四七八、六二圓で平均一人宛八、八七圓余となり不景氣にも拘はらず案外多かつたのは、サラリーマンが多く母校の連中などの中には俸給日の翌日とて俸給袋のまゝ持つて來た者もあつたからだ。總額一等當選者垣內君自分の懷は淋しくも人の懷勘定はうまいと云ふので算盤、二等中嶋茂君で大福帳、三等土屋君で記帳用の大筆を呈した。

（K）